

# 福島安正 陸軍大将

---

福島安正は、1852(嘉永5)年10月27日、信濃国松本城下(現在の長野県松本市)に松本藩士である福島安広の長男として誕生。1867(慶応3)年江戸に出て、幕府の講武所で洋式兵学を学び、新政府軍の松本藩兵として戊辰戦争に参戦しています。以降、明治政府に仕官し、司法省を経て、陸軍省では海外出張により幅広い見識を備え、1887(明治20)年、陸軍少佐に昇進。ベルリン公使館に駐在し、公使の西園寺公望らとロシアの極東侵略の最大の戦略的武器とされたシベリア鉄道敷設の情報収集等を精力的に行いました。しかし、公然たる情報活動は許されないことから、1892(明治25)年、福島はあくまで個人の冒険旅行として、氷点下50度の極寒のシベリア約1万4千キロを唯一人、九死に一生を得ながらも騎馬で横断する快挙にでます。この知らせは内外を駆けめぐり、福島の名は世界中に響きわたりました。福島が千辛万苦して情報収集に尽力したのはひとえに日本の独立と生存のためでした。その後、大本営参謀に就任、1914(大正3)年には陸軍大将に進級、同年帝国在郷軍人会副会長にも就任。晩年は、全国騎馬旅行などを楽しみ、1919(大正8)年2月19日、66歳で亡くなりました。

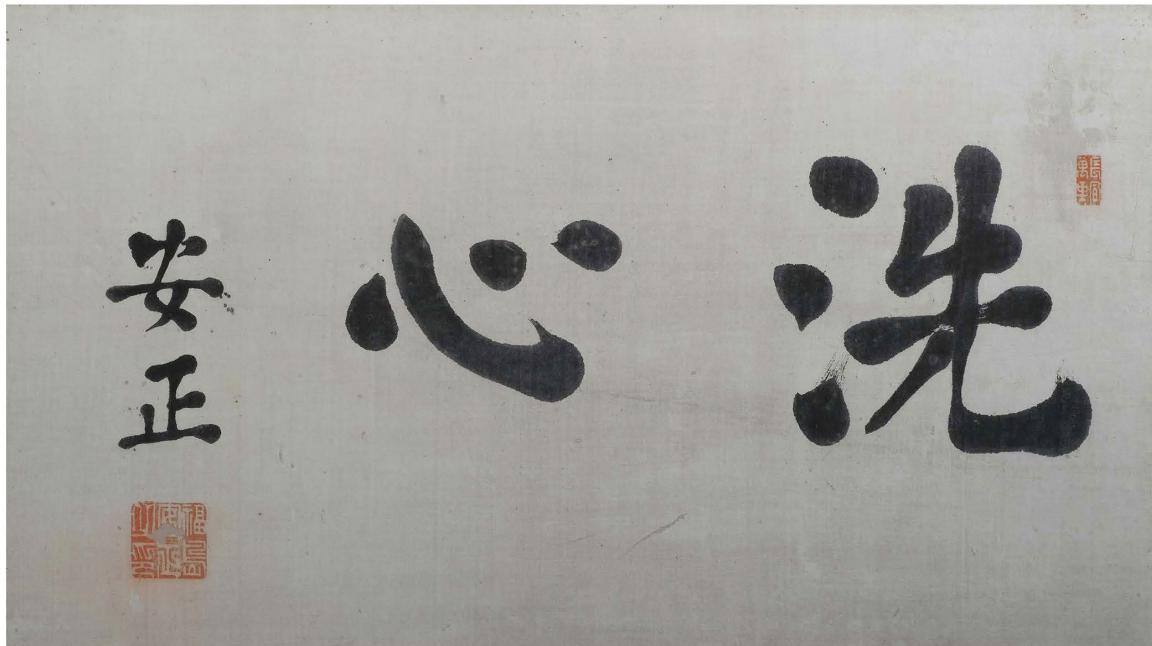
展示の書は、これまでその存在や来歴も含めて全く不明でした。しかし、『九十年史』編さんの調査中にわずかに残っていた資料から、福島が来町したことがあり、その時期や目的なども分かりました。

1929(昭和4)年10月29日に興風会館が開館する前の野田町には、「日本弘道会野田支部」(1894年)や「至徳会」(1898年)、「野田戊申会」(1908年)、「野田町青年団」(1915年)、「野田謝恩会」(1920年)など、醸造家や町の青年有志らによって結成された多くの道徳振興団体や慈善事業団体、社会教化運動団体がありました。とりわけ、「野田戊申会」は有志らの手により、現在の野田市立興風図書館の原点となった戊申会簡易図書館の建設(1921年)や、定期的に講師を招き、「おはなし会」と称する講演会を他の団体と共同開催したり、「野田読書会」をつくって機関誌を刊行したりするなど、文芸運動も展開していました。その中の「おはなし会」開催のチラシに、1918(大正7)年6月8日と9日の両日にわたり、野田小学校(現在の野田市立中央小学校)で、行われた帝国在郷軍人会野田町分会、野田町青年団、野田戊申会主催による第20回おはなし会に陸軍大将として講師を務めていたことが掲載されていました。ここからは推察ですが、野田町在郷軍人会の

有志等が、帝国在郷軍人会の副会長でもある福島に講演をお願いし、来町した際に揮毫を依頼したものかも知れません。そうだとすれば、1918(大正7)年の書となります。

なお「洗心」とは、『茶席の禅語大辞典』に、「心の塵を洗いおとすこと。心の煩累を洗い去り淨めること。また、改心すること。」とあります。

[参考資料] 『野田文化の芽ばえ～明治から昭和中期の社会教育史』野田市郷土博物館・1999年10月2日発行／『レファレンス共同データベース』名古屋市鶴舞中央図書館・2009年1月15日登録日時／[協力] 野田市郷土博物館



残されたわずかな資料から書の来歴が推察できました